



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〔第三二二号〕

小満 しょうまん

五月二十日

さえずり

自粛生活を始めて、夕方、近所のウォーキングが日課になりました。すると、なんと野鳥の声が聞こえてくることでしょうか、田園地帯では、ピーチュル、ピーチュルと盛んにさえずる雲雀ひばりがにぎやかです。

永き日も囀りたらぬひばりかな

松尾芭蕉

かの俳人、松尾芭蕉も詠んだ盛んにさえずる雲雀。これは繁殖期に縄張りを宣言する雄の声、ここにいるよ、とアピールしているだけに声も大きくなるというものです。

声だけでなく、この時期、雲雀はひといきに空高く舞い上がったかと思うと、急に落ちるように降下してきます。空に上がるのを「揚雲雀あげ」、下がるのを「落雲雀おち」と呼びます。これも縄張りをアピールしているのでしょうか。そうした小鳥の姿に、気落ちしがちな日々を励まされているようです。伊勢神宮の参道でも、野鳥の声がよく聞こえます。どのくらいの鳥が神宮に生息しているのでしょうか。

平成十年から四年間、山階鳥類研究所が神域内の鳥類生息調査を実施したところ、百四十一種類が確認されました。そこに、過去の文献や記録を加えると百六十四種にのぼり、その数は国産の鳥類の約三割にあたるということです。神宮の森は想像以上に多くの野鳥がすみかとしていました。参拝者が少なくなった参道は、ふだんより野鳥の声が響き渡っています。草木が周囲に満ち始めるという「小満」。若葉も、野鳥の声も満ちる、みずみずしい季節です。

文 千種清美

